

進村武男著「人と人のつながりの大切さ」を考える 時事通信社 2010年3月16日刊を読む

「人と人のつながりの大切さ」を考える

1. 私の、長い間、産官学連携活動に携わらせていただいた。連携活動をスムーズに進め、共同研究の促進と、その活動を通して思いもかけない新たな着想によるプロジェクトを創り出せないか、国の公募事業に応募して採択にこぎつけ、地域の活性化に貢献できないか等々について、随分と頭を悩ませてきた。
2. その結果、産官学連携の成功の秘訣は、まず人と人とのつながりを大切にして、信頼関係を築き上げ、その後に新規プロジェクト事業を開始すること。そうすれば、事業終了後に、それまで培った人と人との温かいより良い関係が維持され、次の新たな展開の礎となること。この最後の場面が一番大切であることを痛烈に感じたものである。教育は、「人をつくること」に基本を置いている。この単純な原則が忘れられつつある。教育は、「人が人を信頼することの大切さ」を教えることから始まる。教育に競争という概念はなく、人をは「人と人のつながりが大切」であり、互いに尊重し、協力し合って住み良い社会をつくっていかうではないかと呼び掛ける。焦らず慌てずうろたえず、足をしっかりと地に着けて、若者には真に大切なこととは何か、原理原則とは何かを問い直し、教えることではないかと思う。
3. ある賢人は、「凡庸な教師はただしゃべる良い教師は説明する。優れた教師は自らやってみせる。そして、偉大な教師は学生の心に火を付ける」と唱えた。質の高い教員とは、知識が豊富で難しい試験に受かった人ではなく、人の「心」を大切にする教員だと思う。人を育てる教育の成果はすぐに得られるはずがなく、10年後、20年後を期待しながら損得抜き姿勢で対応しなければならない。今の社会は、競争原理が働き過ぎて経済優先のひずみが人の心をむしばんでいる。何事にも度を越えることには慎重でなければならず、バランスのとれた判断がぜひとも必要である。

[コメント]

宇都宮大学学長、進村先生の教育論。お人柄通り、心のあたたかさが感じられる文章。参考にしたい。

- 2010年3月10日 林明夫記 -